

ました

「自分たちのまちは自分たちで守る」をスローガンに、まちの防災を支える消防団。平成31年4月から副団長を増員した他、機能別団員の本格運用を開始する等、さらなる防災力の強化に取り組んでいます。消防団の新たな体制や機能別団員の活動等について紹介します。

加藤領助副団長にインタビュー

「消防団の良さを広めたい」



●プロフィール

高棚分団で平成23年から3年間基本団員を経験し、平成28年の機能別団員発足時から3年間機能別団員として活躍。

副団長に任命されたときは「まさか自分が」と驚きましたが、光栄に思います。消防団は、活動を通じて仲間や地域との絆が生まれ、地域の皆さんに喜んでもらえるところにやりがいを感じます。副団長としてもっと消防団の良さを広め、また団員達が活動しやすくなるようサポートしていけたらと思います。

▶救助資機材を使った訓練



(左から)山田副団長、太田団長、石川副団長、加藤副団長

太田佳男団長、石川秀孝副団長、山田有也副団長に、4月1日から新たに加藤領助副団長が加わり、副団長が3名となりました。

副団長が新たに1名加わりました

安城市消防団 機能別団員愛称

D-RAT

Disaster (災害)
Rescue (救助)
Assistance (援助)
Team (チーム)
それぞれの頭文字を取り、名付けられました。

大規模災害発生時に救助活動等を行う機能別団員は、平成28年度から30年度までの3カ年で毎年30名ずつ任命し、併せて救助資機材等を使った訓練や応急手当に関する講習・研修を実施してきました。

総勢90名の機能別団員が揃い、4月から「D-RAT(ディーラット)」として本格運用を開始しました。

機能別団員D-RAT
の本格運用を開始

団長

副団長

(北部地区) (中部地区) (南部地区)

基本団員(市内30分団)

(火災発生時の消火活動や救助活動等)

機能別団員D-RAT

- ◆マルチ部隊(マルチコプター操縦、訓練指導等)
- ◆広報・ラッパ部隊(防災教育、PR活動等)
- ◆自主防支援部隊(自主防災訓練の支援)

安城市消防団は、団長・副団長をはじめ、市内30分団の基本団員401名及び機能別団員90名の総勢491名となりました。

基本団員は火災発生時の消火活動や救助活動等を行い、機能別団員は3つの部隊に分かれて消防団行事や自主防災訓練の支援、広報・防災教育等を行います。

大規模災害発生時は、副団長及び基本団員が北部・中部・南部の3地区に分かれ、各地区において機能別団員とともに救助活動や情報収集活動等にあたります。

安城市消防団の体制

防災力アップ!! 安城市消防団の 新体制がスタートし

機能別団員D-RATの活動

広報活動

消防団行事や市内のイベントにおいて、ラッパ吹鳴で行事を盛り上げます。また、イベントでの消防団ブースの出展や防災パネルシアターの上演等、PR活動や防災教育等を行います。



救助活動

エンジンカッターやチェーンソー、油圧ジャッキ等を使い、倒壊した建物の下敷きになった人を救出します。



自主防災訓練支援

応急手当普及員の認定を受けた団員が、各地域の自主防災訓練において、AEDの使用法や応急手当等の指導を行います。



応急手当普及員の認定を受けた団員

情報収集活動

カメラを搭載したマルチコプター(ドローン)を使い、大規模災害時の情報収集を行います。



親子で機能別団員になりました!

神原千恵子さん(右)
早耶香さん(左)親子



消防・防災のことは一市民としても勉強になるし、もっと多くの人に消防団のことを知ってほしいです。(千恵子さん) 母の活動を見て、楽しそうだなと思い入団しました。これから地域の皆さんの役に立ちたいです。(早耶香さん)

●入団の申込み・問合せ
市危機管理課(☎71-2220)又は、
安城消防署消防団係(☎75-2001)へ

※右記の他、活動中の負傷に対する公務災害補償、デンパーク年間パスポート等の福利厚生有。

- 費用弁償
- 行事・訓練への参加及び4時間以内の災害活動時↓日額3500円
- 4時間超の災害活動時↓日額7000円
- 機能別団員↓年額1万8800円
- 基本団員↓年額3万7600円〜16万7900円

勤務報酬

●入団要件 18歳以上の市内在住・在勤者

消防団では、新しい仲間を募集しています。女性や学生も大歓迎です。

消防団に入りませんか